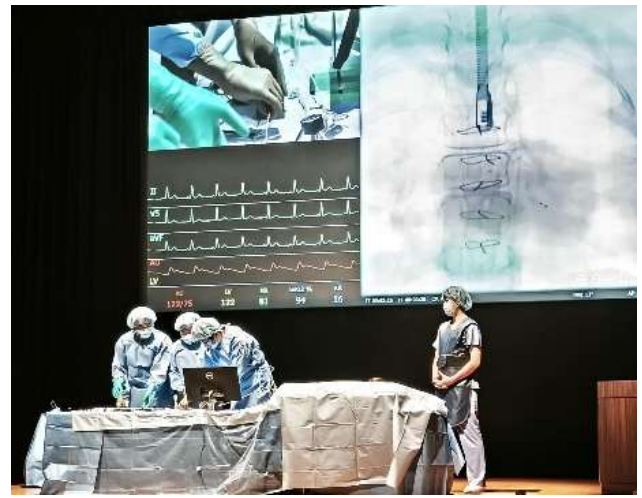


# 大学病院



- ・令和7年度看護師特定行為研修開講式を挙
- ・救命救急センターの充実度評価において7年連続「S評価」を取得
- ・ナース・オブ・ザ・イヤー表彰式を挙
- ・「健康ハートの日2025 in GIFU」を開催  
(岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター主催)
- ・新しい働き方の実現へ -国立大学病院初の試み-
- ・令和7年度「患者紹介・受入医療機関への感謝状」を贈呈
- ・「献血感謝の集い」にて岐阜県知事表彰を受賞
- ・クリスマスイルミネーション点灯式を開催
- ・医学部附属病院の畑中勇治 臨床講師が外科技術競技大会で世界一
- ・令和7年度病院ボランティア感謝状贈呈式・懇談会・研修会を開催
- ・入院中の子どもたちへ向けて、花火の打ち上げを開催
- ・呼吸器外科 岩田尚 教授が第18回 大上賞を受賞
- ・令和7年度看護師特定行為研修修了式を挙

## 令和7年度看護師特定行為研修開講式を挙行

### 【概要】

4月7日（月）、第6期生 看護師特定行為研修開講式を開催しました。

特定行為とは、医師の判断を待つことなく、特定行為研修を修了した看護師の判断で、医師の手順書により一定の診療補助を実践することです。本院は令和2年4月から、特定行為研修を実施する研修機関に指定されています。

秋山病院長と土井特定行為研修センター長からは祝辞が述べられ、研修生代表は「特定行為研修を通じて高度な知識と技術を習得し、現場のニーズに応えられる人材となるよう自己研鑽に努めます」と抱負を語りました。

本院は今後も、社会に貢献できる自律した看護師を育成することに努めます。



研修生代表挨拶



記念撮影



病院長祝辞



センター長祝辞

## 救命救急センターの充実度評価において 7年連続「S評価」を取得

### 【概要】

先日厚生労働省から公表されました「救命救急センターの充実度評価」において、本院の高度救命救急センターが2018年より7年連続で「S」評価を取得しました。

全国308ヶ所の救命救急センターのうち、S評価を受けたのは102ヶ所、A評価が199ヶ所、B評価が7ヶ所であり、岐阜県下の救命救急センターにおいて「S」評価を取得したのは当院のみとなります。

本院は今後も、岐阜県の救急医療の最後の砦として、地域医療に貢献を続けてまいります。



## ナース・オブ・ザ・イヤー表彰式を挙

### 【概要】

5月14日（木）、ナース・オブ・ザ・イヤー 表彰式が行われました。

『ナース・オブ・ザ・イヤー』は看護活動の様々な分野において看護師・助産師が、患者さんの看護や業務上の改善等に貢献したことを称えるために毎年行っているものです。

今回は、効果的な感染症予防や、助産師教育体制の整備に取り組んだ6名の看護師・助産師が選ばれました。

表彰式では、秋山病院長から受賞者に表彰状が手渡され、受賞者の活躍が労われました。

今後のさらなる活躍が期待されます。



## 「健康ハートの日2025 in GIFU」を開催 (岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター主催)

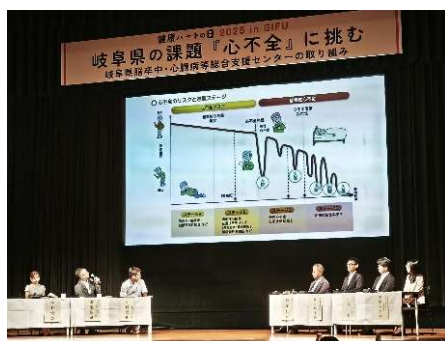
### 【概要】

8月9日（土）、岐阜大学医学部附属病院に新たに開設された岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センターの主催で、「健康ハートの日2025 in GIFU」を岐阜市文化センターにて開催しました。「岐阜県の課題「心不全」に挑む」というテーマで、130名を超える参加者にご来場いただき、今年から実施したキッズイベントには約50名の子供たちが参加しました。

講演会・デモンストレーション・座談会を行ったメイン会場では、患者さんやその家族の姿が多く見られ、「とても勉強になった」「次回は別の疾患や手術などについてさらに知りたい」と興味深く、有意義な時間だったという感想が多く寄せられました。

キッズイベントでは、子供たちがメディカルスタッフと交流し、一緒に参加した家族も興味津々な様子が見られ大変活発なイベントとなりました。検査器具を身に付けてデータを確認したり、実際の手術で使われる器具を使ったゲームをスタッフのアドバイスを受けながら挑戦したり、様々な体験に真剣に取り組む子供たちの姿が見られました。

また、イベントには減塩啓発キャラクター「良塩くん」と岐阜県マスコットキャラクター「ミナモ」も訪れ、子供たちと一緒に体験に参加したり、写真撮影を行ったり多くの交流がありました。



会場の様子



デモンストレーション



キッズイベント



良塩（よしお）&ミナモ



体験コーナー

## 新しい働き方の実現へ -国立大学病院初の試み-

### 【概要】

岐阜大学医学部附属病院では、障がいや病気などにより長時間の勤務が難しい方にも、安心して働ける機会を提供することを目的に、「超短時間雇用創出事業」に取り組んでいます。

この取り組みは、東京大学先端科学技術研究センターが提唱する新しい雇用モデルに基づき、週15分からの就労を可能にするものです。働くことを通じて社会とのつながりを感じ、自信や生きがいを育んでいただけるよう、私たちもできることから少しずつ始めています。

当院では、「面会等の受付業務」に超短時間雇用を導入しています。2025年6月から、岐阜市が設置する「岐阜市超短時間ワーク応援センター（受託事業者：社会福祉法人舟伏）」のご協力のもと、登録ワーカー1名を新たにお迎えしました。来院される方々へのご案内などを担当していただいております。病院の一員として丁寧に業務に取り組んでくださっています。

なお、当院は、全国の国立大学病院の中で初めてこの取り組みを実施した医療機関です。国立大学病院として先駆的に新たな雇用の形を導入したことは、医療現場における多様な人材活用の可能性を広げる一歩と考えております。今後も、こうした取り組みが少しずつ広がっていくことを期待しております。

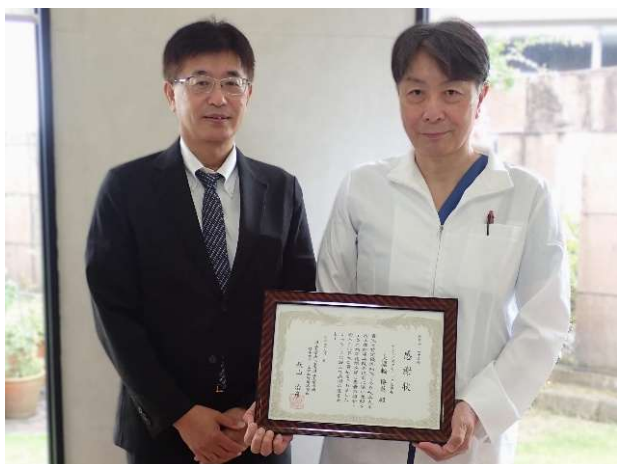
このような取り組みは、岐阜大学が掲げるSDGsの理念——「誰一人取り残さない社会の実現」や「多様性を尊重した人材活用」——にも通じるものです。地域の皆さまとともに、誰もが自分らしく働ける環境づくりを進めてまいります。



## 令和7年度「患者紹介・受入医療機関への感謝状」を贈呈

### 【概要】

岐阜大学病院では例年、前年度の実績より本院に多数の患者を紹介・受け入れていただいた上位30の医療機関へ感謝状を贈呈しています。本年度は過去の訪問実績を参考し下記の医療機関へ病院長が直接訪問し、感謝とさらなる連携のお願いの意を込めて贈呈を行いました。



(右) サンライズクリニック 美濃輪理事長  
(左) 岐阜大学病院 秋山病院長



(左) 戸谷内科 戸谷院長  
(右) 岐阜大学病院 秋山病院長



(右) オリーブ内科・外科クリニック 二宮院長  
(左) 岐阜大学病院 秋山病院長

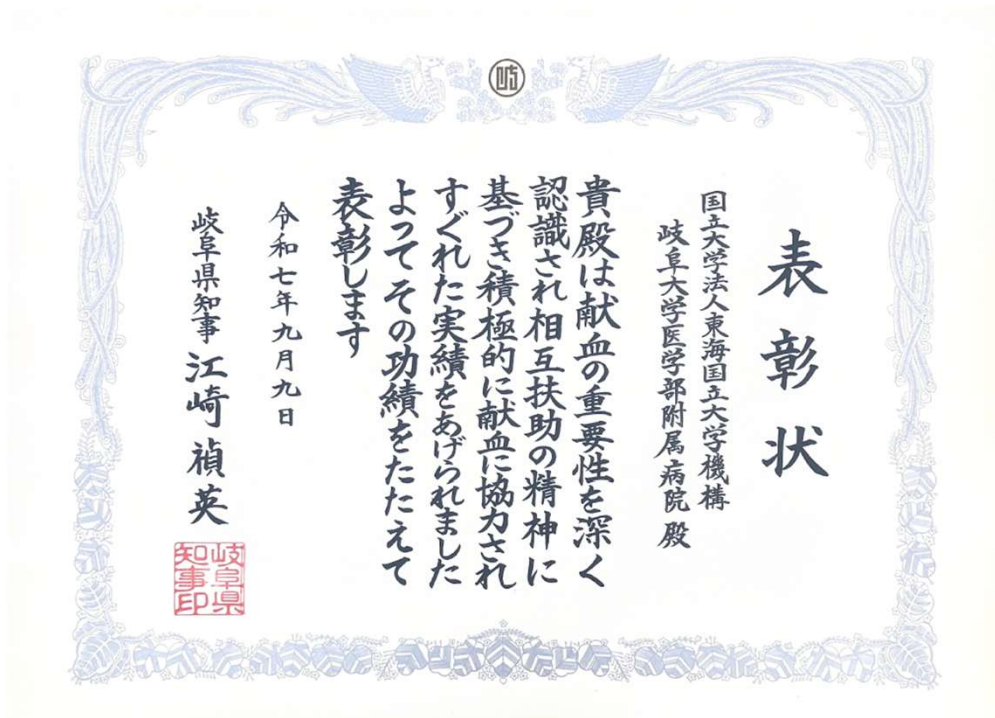
## 「献血感謝の集い」にて岐阜県知事表彰状を受賞

### 【概要】

2025年9月9日（月）、岐阜県庁ミナモホールにて開催された「令和7年度献血感謝の集い」にて、岐阜大学医学部附属病院が岐阜県知事表彰状をいただきました。

この表彰状は、日頃から献血の推進に積極的に協力し、模範となる功績のあった団体又は個人に送られるものです。

当院はこれからも引き続き、献血運動に協力してまいります。



## クリスマスイルミネーション点灯式を開催

### 【概要】

令和7年11月20日（木）、病院1階イベントコーナーにおいて、クリスマスイルミネーションの点灯式を開催しました。

イベントコーナーには高さ3.5メートルの2本のクリスマスツリー、また中庭には可愛いサンタクロースや雪だるまの人形を設置し、それらにイルミネーションを施すことで、訪れる皆さんに楽しんでいただける趣向としています。

点灯式では、病院長の挨拶に続き、さわやかサービス推進室長の音頭により会場に集まったみなさん全員でカウントダウンを行い、イルミネーションが一斉に点灯されました。

続いて岐阜大学医学部室内合奏団によるミニコンサートが開催され、クリスマスにちなんだ曲を演奏。ステージに詰めかけた皆さんは十分に満足された様子でした。

クリスマスイルミネーションは来年1月中旬ごろまでお楽しみいただけますので、ご覧いただければ幸いです。



秋山病院長の挨拶



深尾看護部長による  
点灯カウントダウン



岐阜大学医学部  
室内合奏団の皆さん



サンタクロースとトナカイの姿で  
演奏していただきました



2階のイルミネーションが  
パワーアップしました



中庭もご覧いただけますと  
幸いです

## 医学部附属病院の畑中勇治 臨床講師が 外科技術競技大会で世界一

### 【概要】

医学部附属病院 消化器外科の畑中勇治 臨床講師が、11月にシンガポールで開催された世界トップレベルの外科医が集う国際大会「MIS Championship 2025」に日本代表チームの一員として出場し、見事世界一の栄冠を獲得しました。この大会は、腹腔鏡手術を中心とした低侵襲外科手技（MIS: Minimally Invasive Surgery）の精度・スピード・安全性を競うもので、世界各国から選抜された外科医が技術を競い合いました。

畑中臨床講師は、2024年12月の第37回日本内視鏡外科学会総会で行われた「日本代表選抜選手権」において日本一に輝いており、その結果、日本代表として国際大会に出場する権利を獲得し「MIS Championship 2025」に出場しました。

今回の優勝は大学の外科教育・研究体制の質の高さを示す重要な実績であり、地域医療から世界水準の医療へとつながる取り組みを強化するものとなります。

### ○畑中臨床講師の受賞コメント

「この度は身に余るご紹介をいただけることとなり大変恐縮でございます。まだ研鑽中の立場ではございますが、幸運も重なり今回の結果をいただくことが出来ました。この結果に慢心せず、引き続き患者様へ良い治療が提供できるよう邁進して参ります。」

### ■ 大会概要

大会名 : MIS Championship 2025

開催期間 : 2025年11月4～8日  
(世界内視鏡外科学会内にて開催)

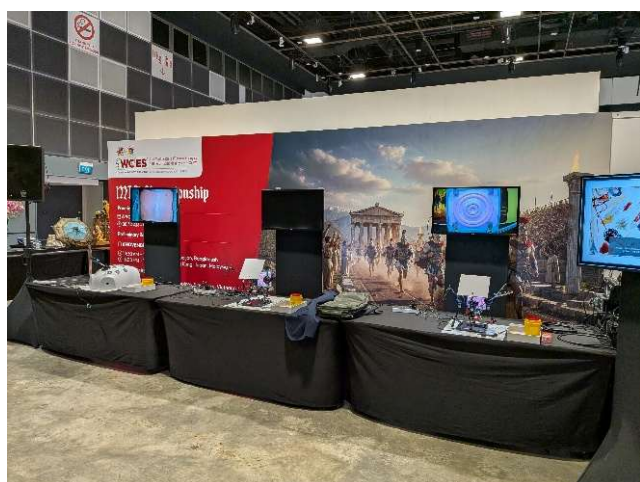
開催地 : シンガポール

競技内容 : 腹腔鏡下縫合・結紮、TAPP法などの  
基本・応用技術を制限時間内で実施し、  
正確性・安全性・スピードを総合評価

参加チーム数 : 世界各国から20チームが参加



表彰式の様子  
(壇上の左から4人目が畑中臨床講師)



## 令和7年度病院ボランティア 感謝状贈呈式・懇談会・研修会を開催

### 【概要】

当院では、毎年ボランティア活動を長時間続け、その功績が顕著であった方へ、病院長より感謝状を贈呈しています。

今年度の感謝状の贈呈者は、高橋しな子さん（4,000時間達成）、三宅利幸さん（200時間達成）、千地陽子さん（200時間達成）の3名でした。

感謝状贈呈式に続いて行われた懇談会では、病院長、副病院長、ボランティア運営に係わるメンバー等が、ボランティア活動される皆さんと一緒にテーブルを囲み、日々の活動等について情報交換を行いました。

午後からの、ボランティア研修会では、サービスマネジメント担当の中口看護師を講師とし、「ボランティア活動における患者対応」について聴講しました。

岐阜大学病院では、幅広い年代のボランティアさんが活躍しており、皆さんやりがいを持って楽しく活動されています。病院ボランティアは、特別な資格を持っていなくても患者さんの役に立ちたいと思っている方ならどなたでも可能です。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



## 入院中の子どもたちへ向けて、花火の打ち上げを開催

### 【概要】

12月12日（金）、岐阜大学医学部附属病院の南東の位置から、入院中の子どもたちへエールの気持ちを込めて花火が打ち上げられました。

花火は病院南東の場所から打ち上がり、入院中の子どもたちは、小児科病棟窓から約10分間の花火を鑑賞しました。

花火が上がると賑やかな歓声があがり、子どもたちは目を輝かせて楽しんでいる様子でした。終了後は、病棟からサイリウムを振って花火師さん達にありがとうを伝えました。

この花火打ち上げは、「小児難病を向き合う子どもとその家族を応援」している団体、エールミールぎふさんの活動によるものです。

クラウドファンディングや募金箱を通じた多くの皆さまからの温かいご支援により、無事、岐阜市内の3病院（当院ほか、岐阜市民病院、岐阜県総合医療センター）の付近で同時に打ち上げとなりました。

この花火が、病気と闘う子どもたちとご家族の明日への力になりますように。引き続き、当院も子どもたちの健やかな未来を応援してまいります。



子どもたちも大盛り上がりでした



終了後に、サイリウムで花火師さん達にありがとうを伝えました

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/12/14	中日	長期入院の子と家族らに花火のプレゼント 病棟の窓越し 上を向いて 岐阜の団体が打ち上げ ～岐阜大学医学附属病院～

## 呼吸器外科 岩田尚 教授が第18回 大上賞を受賞

### 【概要】

呼吸器外科長 岩田尚 教授が、日本内視鏡外科学会の大上賞を受賞しました。岐阜大学からは初の受賞者となります。

大上賞は、内視鏡外科学の発展と普及に著しく貢献した者1名に、年に1度贈られる賞です。国内の内視鏡外科に携わる医師たちにとって最高の榮譽をして評価されています。

### 受賞された岩田先生のコメント

「この度、日本内視鏡外科学会より伝統ある大上賞を拝受し、身に余る光栄に存じます。呼吸器外科領域では9年ぶり2人目となります。関係各位よりご評価頂いたことに深く感謝致しますと共に今後も益々精進して参りたいと存じます。」



## 令和7年度看護師特定行為研修修了式を挙

### 【概要】

3月2日（月）、看護師特定行為研修修了式を開催しました。

本研修の第6期生として修了した看護師4名に対し、秋山病院長から修了証書が手渡されました。

秋山病院長は「働き方改革もあり、特定看護師には期待すると同時に大きな役割を担ってもらうことになる。一人一人のキャリアアップの第一歩として、研修で得られた技術を、ぜひ看護業務の中で実践してほしい」、土井特定行為研修センター長は「特定看護師の力を借りる機会がこれからも増えていくので、大いに期待している。」と祝辞を述べました。

高度救命救急センターに勤務している研修生代表は「研修で得た知識、技術を用いて、緊急度・重症度を繰り返し評価することや、患者の訴えや身体観察から病態をアセスメントし、迅速な特定行為の実践を行い、重症化の予防に努めます。」と抱負を語りました。

本院は今後も、社会に貢献できる自律した看護師を育成することに努めます。

